

令和元年度

スマートフォン等の利用に関する 実態調査の結果について

1 調査の目的

児童生徒のスマートフォン等の所持や利用の状況、トラブル等の実態などを把握することで、児童生徒への指導や保護者への啓発等、今後の取組に資する。

2 調査の実施時期

令和元年12月～令和2年1月（平成26年から毎年12月に実施）

3 調査の概要

- ・ 小学校4年生から高校3年生までの児童生徒を対象
- ・ 県内の小学校33校、中学校32校、高等学校17校を抽出し、抽出された学校において、各学年から1クラスを選び実施

〈調査への回答者数〉

小学校 2,707人（抽出率5.4％）

中学校 2,669人（抽出率5.6％）

高等学校 1,699人（抽出率5.0％）

合計 7,075人（抽出率5.4％）

4 備考

本報告書において、

- ・ スマホ等とは、スマホ（スマートフォン）または携帯（従来型の携帯電話）を表す。
- ・ スマホ、パソコン、ゲーム機等ネット接続が可能な機器から利用できる、メール、LINE、Twitter、オンラインゲーム等の総称を「コミュニケーションサービス」と表す。
- ・ 小学生とは、小学校4年生から小学校6年生までを指す。

令和2年5月

岡山県教育庁義務教育課
生徒指導推進室

(1) スマホ等の利用状況について

以下、小学生は「小」、中学生は「中」、高校生は「高」と表す。

〈 概 要 〉

① スマホ等の所持率

自分のスマホ等を持っている割合は、小37.0%、中64.1%、高98.7%であり、小・中で増加傾向にある。

② 長時間利用の割合

「平日1日に平均3時間以上」スマホやゲーム機等を利用している割合は、小21.2%、中28.6%、高41.0%であり、前年度より、小・中で増加、高は減少している。

③ 部活動所属別の利用時間

中・高校生ともに部活動に所属していない生徒の方が所属している生徒に比べ、長時間利用(3時間以上)の割合が8～10ポイント高くなっている。

④ ネット等の利用率

普段、インターネット(以下「ネット」という。)やコミュニケーションサービスを利用している割合は、小67.0%、中85.0%、高97.6%で増加傾向にある。

※小(ゲーム:75.7%)、中(LINE:85.4%)、高(LINE:97.6%)が最も利用割合が高い。

⑤ 日常生活への影響

スマホ、ネット、ゲーム機等の利用のために「日常生活で減った時間がある」と答えた割合は 小28.6%、中40.7%、高42.4%であり、前年度より、小で増加、中・高は減少している。

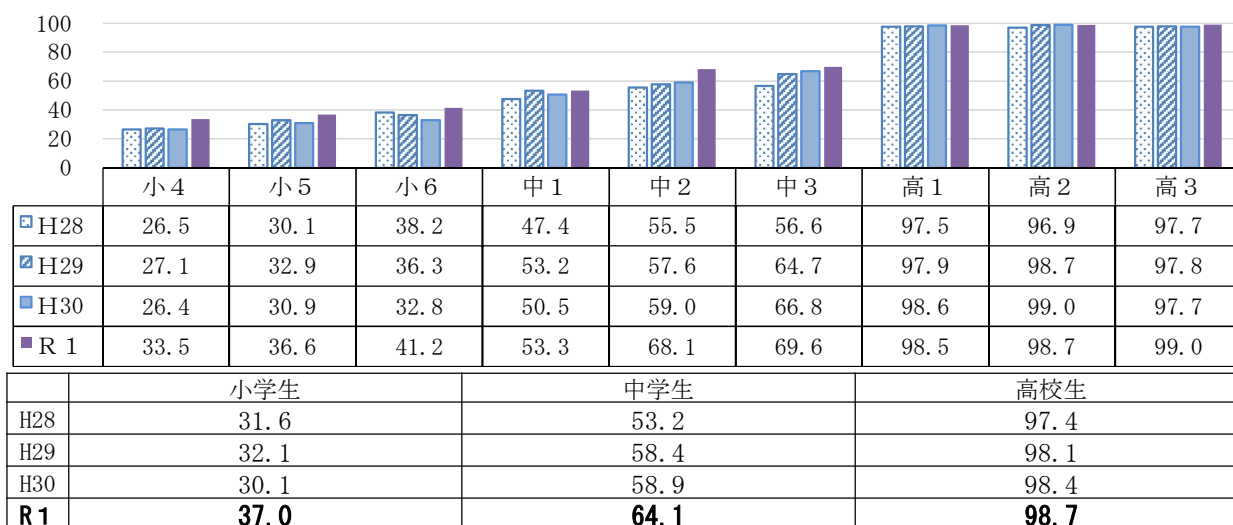
⑥ 情報機器端末の学習活用

学習への活用の割合は、小72.1%、中86.9%、高94.6%と、スマホ等の情報機器端末が広く学習にも活用されている。

① 自分のスマホ等を持っているか

◆「自分専用のスマホ・携帯を持っている」と回答した割合(%)

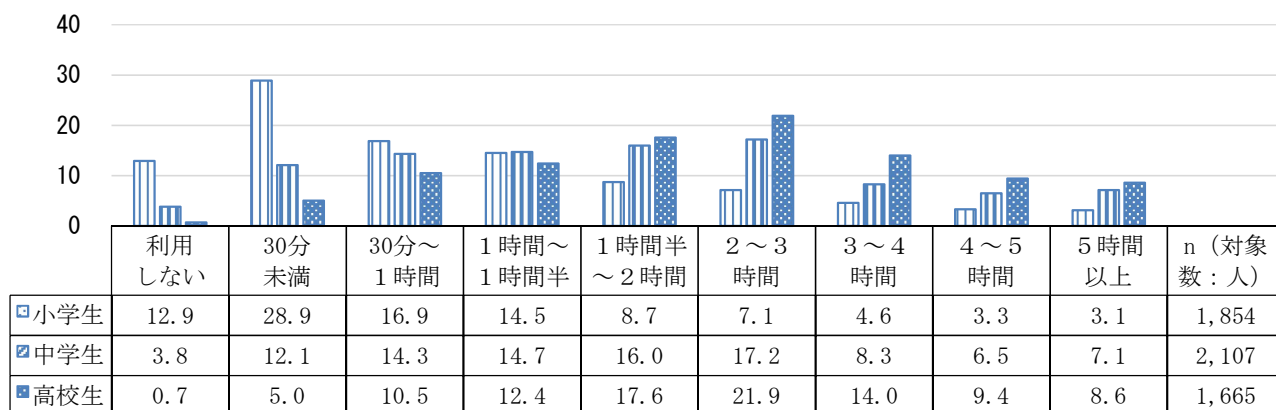
<本調査の回答者全員が対象>



② 平日1日当たり、どれくらいスマホ等を利用しているか

◆ 平日1日当たりのスマホ等の利用時間別割合(%)

＜自分専用のスマホ等を持っている又は家族のものを借りて使っている児童生徒の回答＞



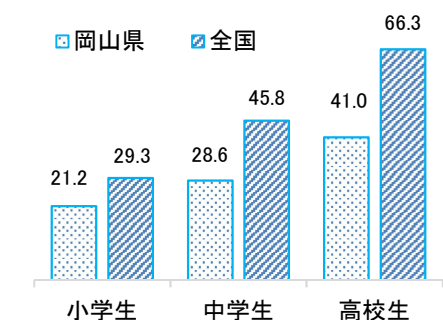
※ 例えば、2～3時間は、2時間以上3時間未満を表す。

◆ スマホ・携帯、パソコン、タブレット、携帯音楽プレーヤー、ゲーム機等、すべての情報機器端末の利用時間の合計を「平日1日に3時間以上」と回答した割合(%)

＜本調査の回答者全員が対象＞

	H28	H29	H30	R1	対H30増減	n (R1対象数：人)
小学生	15.5	17.3	18.0	21.2	+3.2	2,707
中学生	22.5	25.1	27.9	28.6	+0.7	2,669
高校生	34.6	36.3	41.3	41.0	-0.3	1,699

＜参考＞ 平日1日に3時間以上、スマホやゲーム等を利用する割合(%)



全国値は、青少年のインターネット利用環境調査【内閣府 R2.3】による。

③ 「所属する部活動」別に見た、平均1日当たりのスマホ等の利用時間別割合(%)

＜中学生・高校生全員が対象＞

＜中学生＞

	0～1時間未満	1～3時間未満	3時間以上	n (対象数：人)
運動部	31.2	49.1	19.6	1,493
文化部	37.4	40.5	22.0	395
所属なし	25.5	44.7	29.6	286

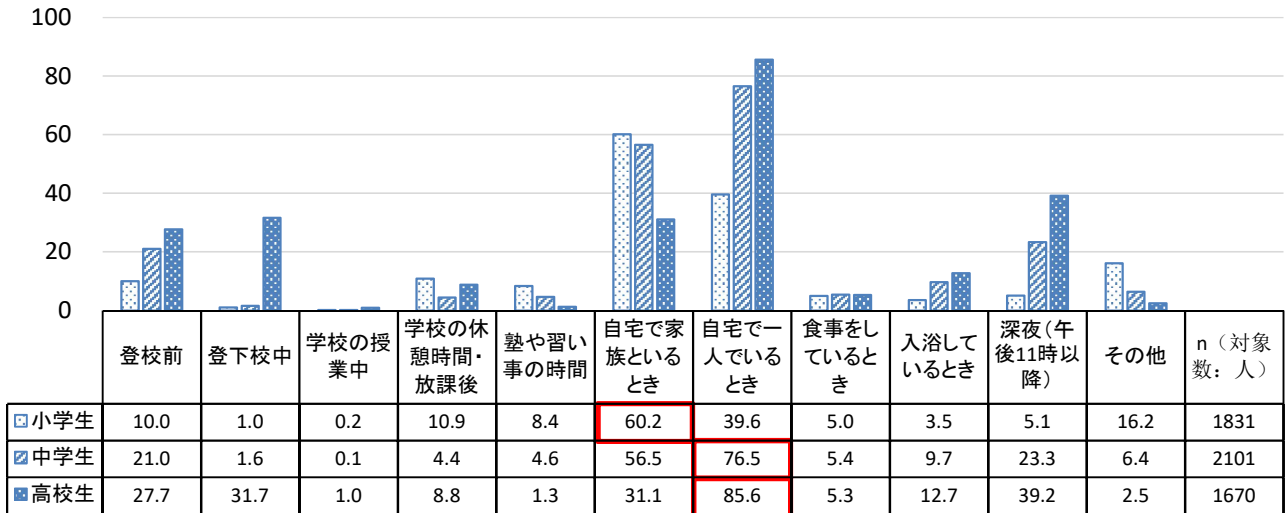
＜高校生＞

	0～1時間未満	1～3時間未満	3時間以上	n (対象数：人)
運動部	16.1	54.7	29.3	746
文化部	16.9	52.6	30.4	539
所属なし	16.2	45.2	38.7	377

スマホ等をよく利用するのはどんな時か 【複数回答】

◆ スマホ等の利用時間帯別割合(%) <自分専用のスマホ等を持っている又は家族のものを借りて使っている児童生徒の回答>

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



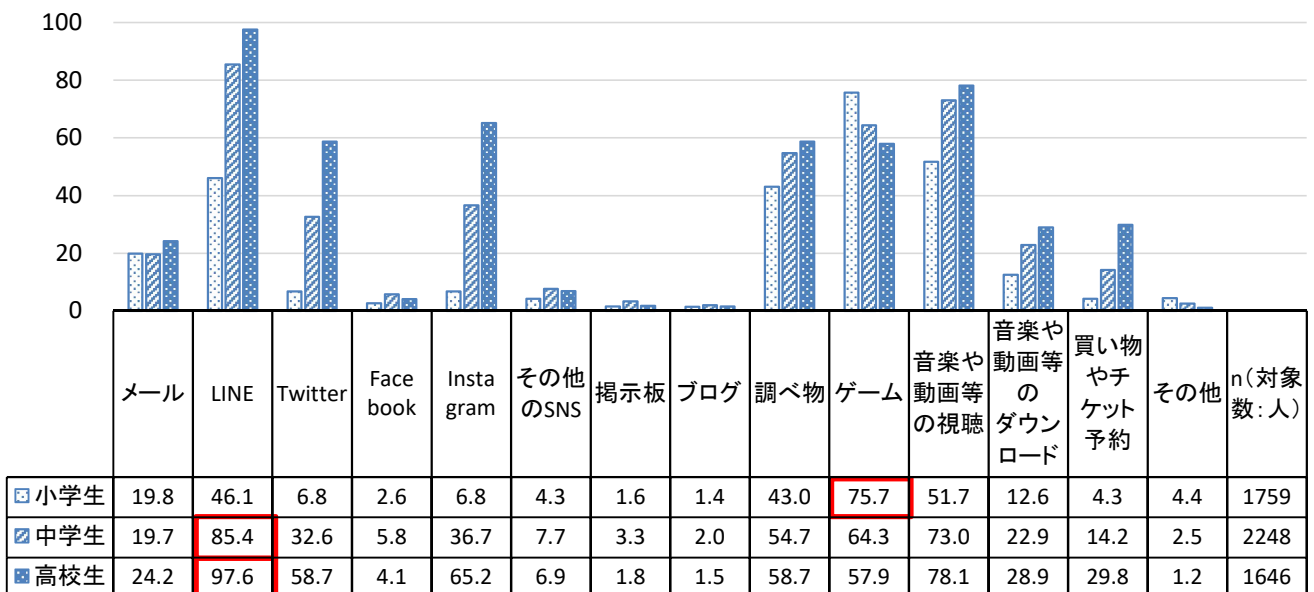
④ ネットやコミュニケーションサービスを利用しているか

◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用している」と回答した割合(%) <本調査の回答者全員が対象>

	H28	H29	H30	R1	対H30増減	n(R1対象数:人)
小学生	57.7	55.6	63.4	67.0	+3.6	2,643
中学生	78.8	81.4	83.6	85.0	+1.4	2,252
高校生	95.5	95.9	96.6	97.6	+1.0	1,687

◆ サービス形態別の利用率(%)【複数回答】 <ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



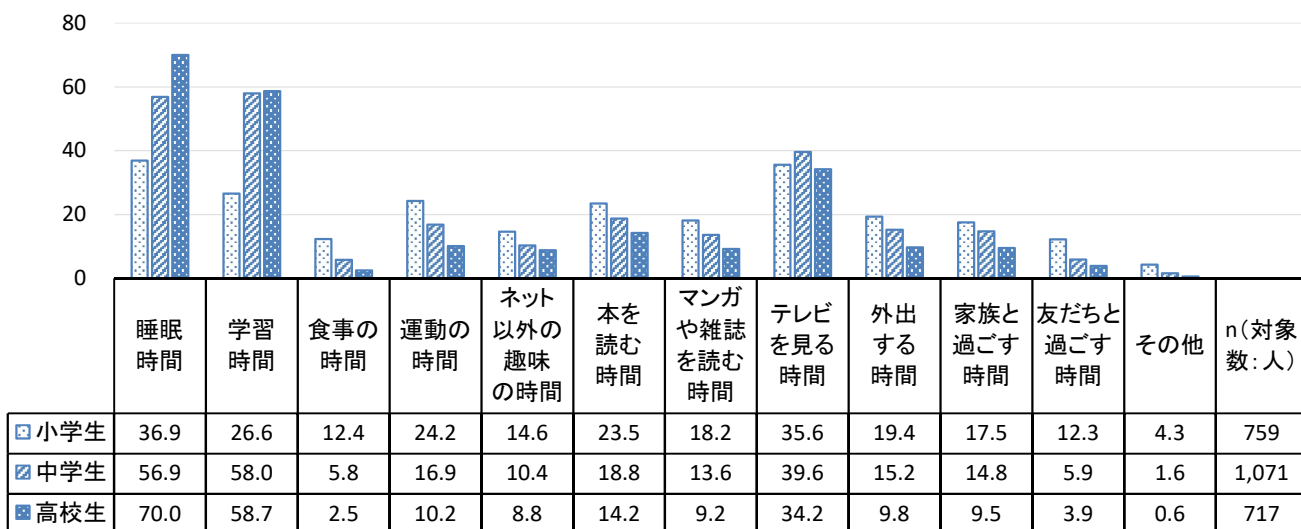
⑤ スマホ、ネット、ゲーム機などの利用のために日常生活で減った時間があるか

◆ 情報機器端末等の利用のために、「減った時間がある」と回答した割合(%) <本調査の回答者全員が対象>

	H28	H29	H30	R1	対H30 増減	n (R1対象数: 人)
小学生	23.6	24.2	27.0	28.6	+1.6	2,663
中学生	36.6	40.7	41.2	40.7	-0.5	2,632
高校生	46.5	48.1	46.0	42.4	-3.6	1,693

◆ 具体的に減った時間(%)【複数回答】

<情報機器端末等の利用のために「減った時間がある」と回答した児童生徒が対象>



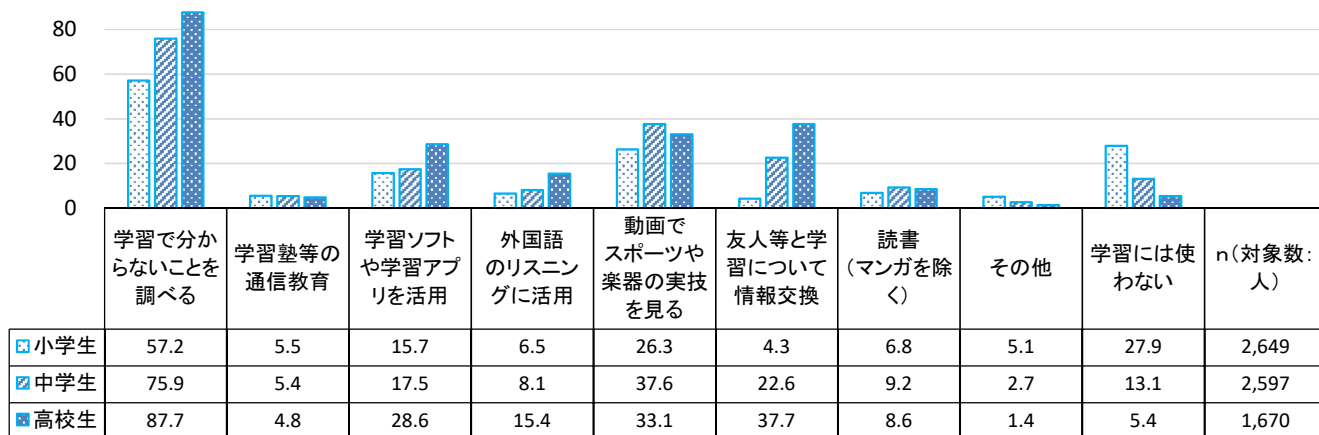
【小学生】 ①睡眠時間 (36.9) ②テレビを見る時間 (35.6) ③学習時間 (26.6)

【中学生】 ①学習時間 (58.0) ②睡眠時間 (56.9) ③テレビを見る時間 (39.6)

【高校生】 ①睡眠時間 (70.0) ②学習時間 (58.7) ③テレビを見る時間 (34.2)

⑥ 情報機器端末をどのように学習活動(習い事や部活を含む。)に活用しているか。【複数回答】

<本調査の対象者全員が回答>



※ 学習活動に活用すると答えた割合 小:72.1%、中:86.9%、高:94.6%

(2) スマホやネット等を介したいじめやトラブルについて

〈 概 要 〉

① 「嫌な経験をしたことがある」割合

スマホ、ネット、コミュニケーションサービスを利用して、「嫌な経験をしたことがある」と答えた割合は、小9.1%、中12.0%、高10.9%であり、前年度より、小で増加、中・高は減少している。

※いずれの校種も「書き込んだ内容がうまく伝わらず誤解された。」が最も多かった。

② 「悩みや不安を感じている」割合

ネットやコミュニケーションサービスを利用することで、「悩みや不安を感じることがある」と答えた割合は、小11.1%、中12.7%、高12.8%であり、小で増加、中・高は年々減少している。

③ フィルタリングの設定率

「フィルタリングを設定している」と答えた割合は、小42.0%、中38.7%、高40.8%であり、前年度より、全ての校種で増加している。

④ 画像のやりとりの経験率

面識のない人と画像のやりとりを行った経験のある割合は、前年度と同程度の小で1.1%、中で3.4%、高で5.3%である。

① ネット利用によって、嫌な経験をしたことがあるか

◆ 「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたことがある」と回答した割合(%)

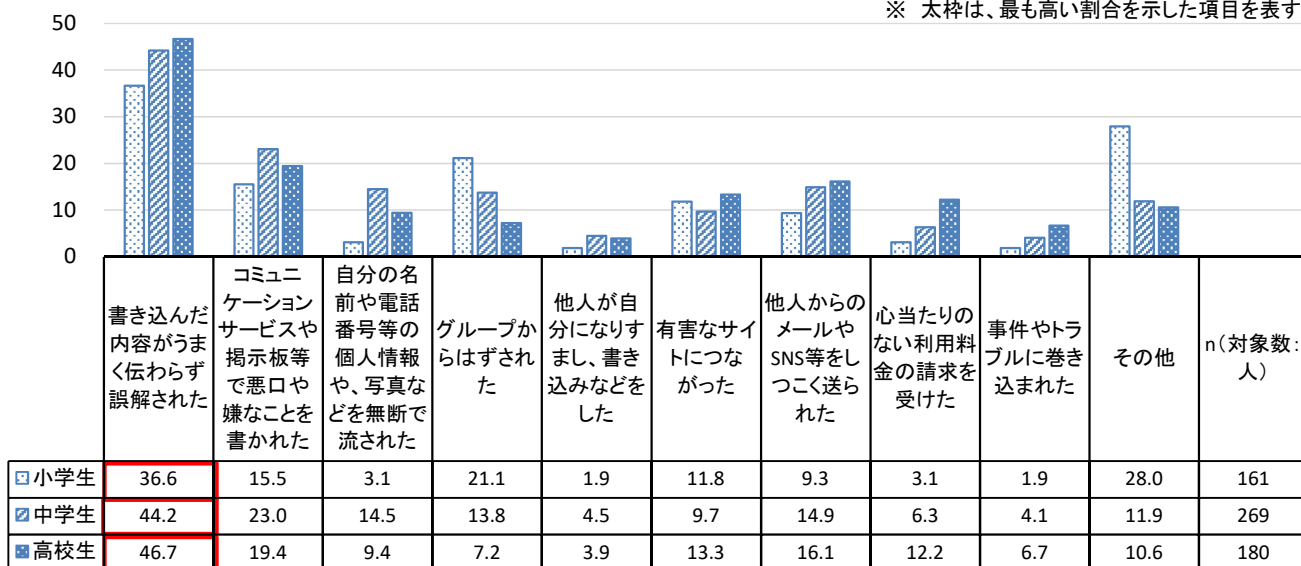
＜ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答＞

	H28	H29	H30	R1	対H30増減	n (R1対象数：人)
小学生	9.5	7.7	6.9	9.1	+2.2	1,738
中学生	21.5	21.2	15.9	12.0	-3.9	2,240
高校生	17.1	18.2	19.5	10.9	-8.6	1,640

◆ 「経験した嫌なこと」の割合(%) 【複数回答】

＜ネット利用によって嫌な経験をしたことがある児童生徒の回答＞

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



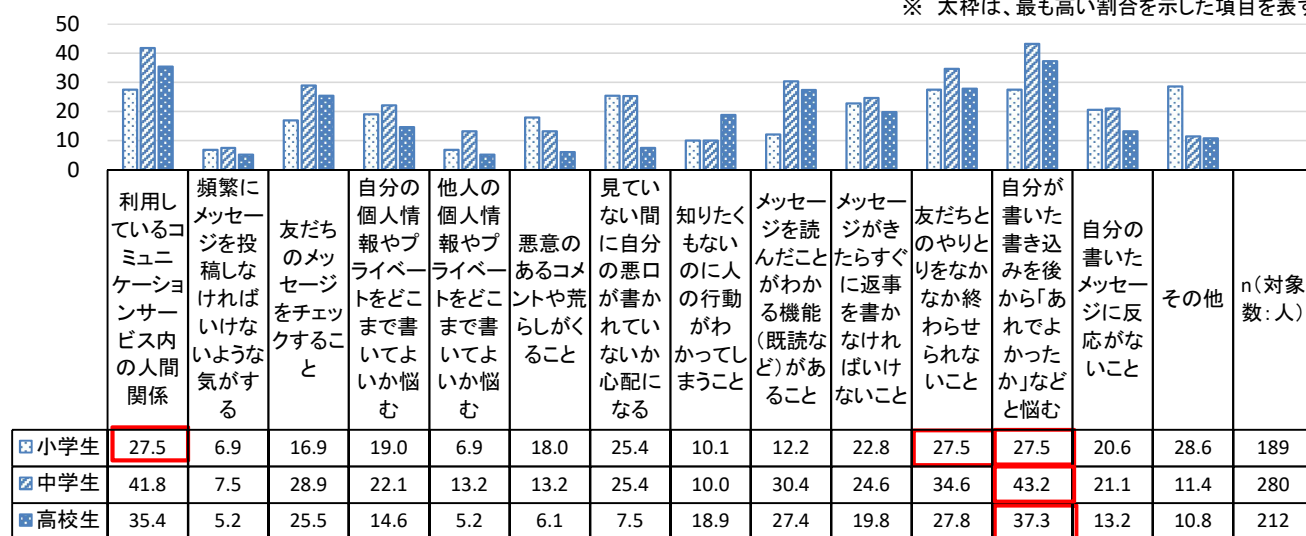
② ネット利用によって、悩みや不安を感じたことがあるか

- ◆「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることがある」と回答した割合(%)
 <ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

	H28	H29	H30	R1	対H30増減	n (R1対象数：人)
小学生	8.3	6.9	8.6	11.1	+2.5	1,753
中学生	17.5	17.6	17.1	12.7	-4.4	2,236
高校生	18.5	17.0	15.9	12.8	-3.1	1,643

- ◆ 具体的な悩みや不安の内容別の割合(%)【複数回答】
 <ネットやコミュニケーションサービスを利用して、悩みや不安を感じることがある児童生徒の回答>

※ 太枠は、最も高い割合を示した項目を表す。



③ フィルタリングを設定しているか

- ◆ フィルタリングの設定に関する児童生徒の割合(%)
 <自分専用のスマホ等を持っている児童生徒の回答>
 ※ ()はH30との増減

	H28	H29	H30	R1			n (R1対象数：人)
	設定している	設定している	設定している	設定している	設定していない	わからない	
小学生	39.9	40.2	38.4	42.0 (+3.6)	18.6	39.4	969
中学生	39.6	36.8	34.3	38.7 (+4.4)	22.2	39.2	1,673
高校生	46.0	41.8	38.1	40.8 (+2.7)	29.1	30.1	1,633

※ 「設定している」には、「ネットは使えない機種・設定」と回答した児童生徒を含む。

④ スマホ等で撮影した画像のやりとりをしたことがあるか

- ◆「スマホ等で自分で撮影した画像(写真・動画)のやりとりをしたことがあるか」と回答した割合(%)
 <ネットやコミュニケーションサービスを利用している児童生徒の回答>

	同じ学校の友達との間で	違う学校との知人との間で	知らない人との間で	n (R1対象数：人)
小学生	22.3 (17.8)	8.3 (6.6)	1.1 (0.9)	1,770
中学生	55.5 (54.9)	18.1 (16.8)	3.4 (3.7)	2,252
高校生	78.8 (78.2)	45.6 (45.4)	5.3 (5.1)	1,647

()内はH30

(3) スマホ等の利用に関する家庭のルールや、ネットの危険性等に関する学習について

〈 概 要 〉

① 家庭のルールの有無

スマホ等の利用に関する家庭のルールが「ある」と答えた割合は、小61.9%、中49.4%、高20.6%であり、前年度より、小・中で増加、高は減少している。

② 家庭のルールの内容

「家庭のルールがある」と答えた児童生徒のうち、そのルールについては、全ての校種で「使う時間」、「知らない人からのメール等に返信しない」、「他人が傷つくような書き込み等はない」が多い。

③ 危険性等の学習の状況

スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだりしたことがある」と答えた割合は、小90.6%、中93.5%、高96.0%で、全ての校種で増加しており、特に小学生において大きく増加している。また、全国と比較すると、小で+9.3%、中で+1.2%、高で+2.2%と、全ての校種でその割合は高い。

① スマホ等の利用に関して家庭のルールが設定されているか

◆ 家庭のルールの有無に関する回答の割合(%)

＜自分専用のスマホ等を持っている又は家族のものを借りて使っている児童生徒の回答＞

	H28	H29	H30	R 1		n (R1対象数:人)
	ある	ある	ある	ある	ない	
小学生	60.0	60.5	53.5	61.9 (+8.4)	38.1	1,743
中学生	47.1	50.9	46.7	49.4 (+2.7)	50.6	2,238
高校生	20.4	22.4	21.2	20.6 (-0.6)	79.4	1,638

※ ()はH30との増減

◆ ペアレンタルコントロールが利用されている児童生徒の割合(%)

＜自分専用のスマホ等を持っている児童生徒の回答＞

	はい	いいえ	不明	n (対象数:人)
小学生	22.0	41.9	36.2	970
中学生	19.7	52.6	27.7	1,678
高校生	9.6	72.4	18.0	1,647

＜参考＞ スマホ、ネット、ゲーム機等の利用について、「〇時以降は使用しない」というルールを決めている児童生徒、ルールではないが自分で使わないように決めている児童生徒の割合(%)

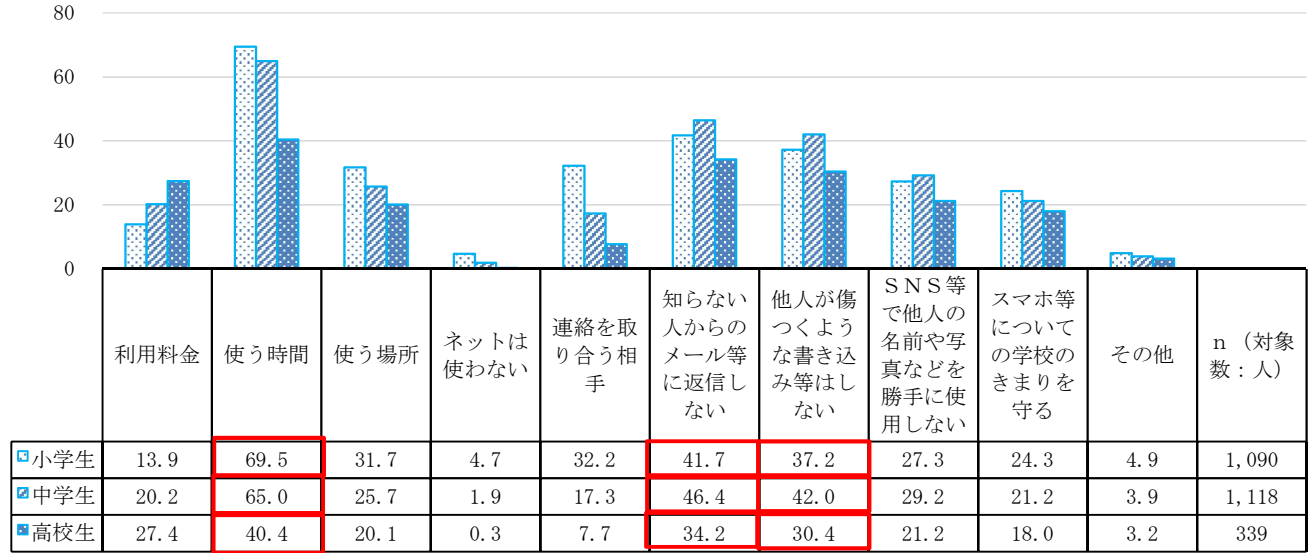
小学生 74.0%、中学生 53.9%、高校生 20.1%

＜本調査の回答者全員が対象＞

② どのようなルールを決めているか【複数回答】

◆ 家庭のルールに関する回答の割合(%) <スマホ等の利用に関して家庭のルールが設定されている児童生徒が回答>

※ 太枠は、高い割合を示した上位3項目を表す。



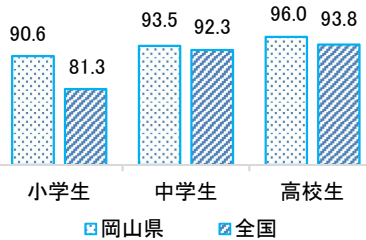
③ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだことがある」と答えた割合(%)

◆ スマホやネットの危険性について、「教えてもらったり、学んだりした」経験の有無に関する回答の割合(%)

<本調査の回答者全員が対象>

	H28	H29	H30	R1			n (R1対象数:人)
	ある	ある	ある	ある	ない	不明	
小学生	81.8	82.2	85.8	90.6 (+4.8)	5.4	4.0	2,674
中学生	90.4	92.3	92.6	93.5 (+0.9)	3.5	3.0	2,627
高校生	93.8	93.8	93.8	96.0 (+2.2)	1.8	2.3	1,682

※ スマホ等の危険性の学習の状況



全国値は、青少年のインターネット利用環境調査【内閣府 R2.3】による。

◆ スマホやネットの危険性について、どこで学んだり、誰に教えてもらったりしたかの回答割合(%)【複数回答】

<スマホやネットの危険性について、教えてもらったり、学んだりした経験のある児童生徒の回答>

	学校で					保護者に					販売店で					n (R1対象数:人)
	H28	H29	H30	R1	対H30年増減	H28	H29	H30	R1	対H30年増減	H28	H29	H30	R1	対H30年増減	
小学生	76.9	76.3	79.3	78.5	-0.8	52.6	52.9	56.4	56.1	-0.3	3.9	4.0	4.0	2.7	-1.3	2,412
中学生	95.4	96.1	96.2	94.8	-1.4	34.0	36.3	36.2	36.8	+0.6	6.1	6.6	6.4	6.6	+0.2	2,452
高校生	97.5	97.8	97.2	97.5	+0.3	18.9	19.9	19.4	21.3	+1.9	7.1	8.0	8.1	6.6	-1.5	1,614

【参考】ネット依存傾向について＜令和元年度岡山県学校保健概要調査（R1.12）から＞

- ネット依存とは、明確な定義はないが、アルコール、薬物、ギャンブル等に対する依存症と同じように、インターネットを使用せずにはいられなくなる病的な状態を指す。
- ネット依存の傾向を図る手法としては、アメリカのピッツバーグ大学キンバリー・ヤング准教授が提唱した20項目、簡易版の8項目が代表的な手法である。

【ネット依存傾向チェックシートの概要】－保健体育課－

◆小学生：簡易版8項目

※○の数で判定

低い：0～2個 中：3～4個 高い：5～8個

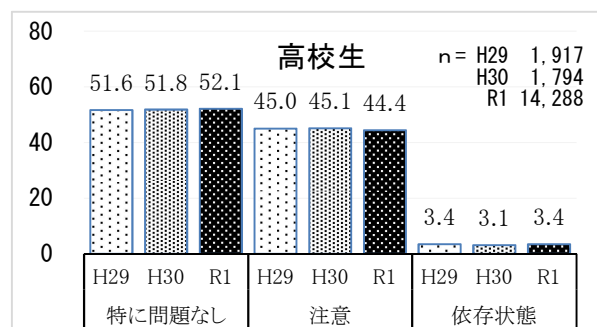
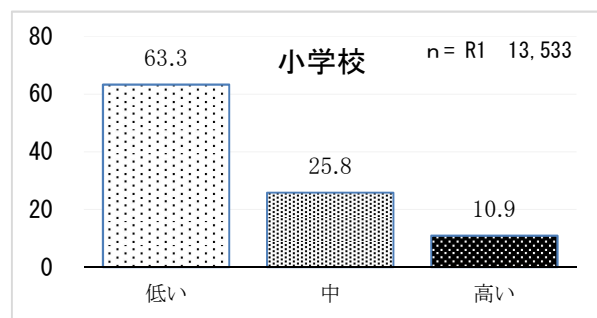
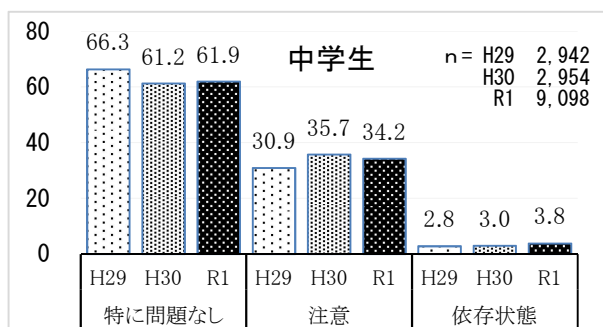
◆中・高校生：詳細版20項目

※各項目5点で点数化

総得点 ①特に問題なし：20～39点

②注意：40～69点

③依存状態：70～100点



◆簡易版8項目（小学生）

- ① ネットに夢中になっていると感じることがある。
- ② 満足感を得るために、ネットを使う時間を長くしたいと感じることがある。
- ③ ネットの利用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとして失敗したことがある。
- ④ ネットの使用時間を短くしたりやめようとすると、落ち着かなかったり、不機嫌になったり、落ち込んだり、イライラしたりすることがある。
- ⑤ 使い始めに思っていたよりも、長い時間、ネットをつないだ状態であることがある。
- ⑥ ネットのために、大切な人間関係、学校のことや部活動のことを台無しにしたり、危くすることがある。
- ⑦ ネットへの熱中しすぎを隠すために、家族、先生やその他の人たちに嘘をついたことがある。
- ⑧ 自分にふりかかった問題から逃げるため、または絶望、不安、落ち込みといったいやな気持ちから逃げるために、ネットを使うことがある。

◆詳細版20項目（中・高校生）

- ① 気がつくと思っていたより長い時間、ネット等を利用していることがある。
- ② 長い時間ネット等を利用していたために、家の手伝いや役割をおろそかにすることがある。
- ③ 家族や友達と過ごすよりも、ネット等の利用を優先したいと思うことがある。
- ④ ネット等を介して、新しく知り合い（友人を含む）を作ることがある。
- ⑤ まわりの人から、ネット等の利用時間や回数について注意されたことがある。
- ⑥ ネット等をしている時間が長く、学校の成績に影響することがある。
- ⑦ ネット等への関わりが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることもある。
- ⑧ 他にやらなければならないことがあっても、まず先に、LINE（ライン）やTwitter（ツイッター）、Facebook（フェイスブック）、メールなどをチェックすることがある。
- ⑨ 人に、ネット等で何をしているのか聞かれたとき、いいわけをしたり、隠そうとしたりすることがある。
- ⑩ 日々の生活の問題から気をそらすために、ネット等で時間を過ごすことがある。
- ⑪ 気がつけば、また次のネット等の利用を、楽しみにしていることがある。
- ⑫ ネット等のない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある。
- ⑬ ネット等を利用している最中に誰かに邪魔をされると、いらいらしたり、怒ったり、言い返したりすることがある。
- ⑭ 夜遅くまでネット等に関わることが原因で、睡眠時間が短くなっている。
- ⑮ ネット等をしていないときでも、ネット等のことを考えてぼんやりしたり、ネット等をしているところを空想したりすることがある。
- ⑯ ネット等をしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある。
- ⑰ ネット等をする時間や頻度を減らそうとしても、できないことがある。
- ⑱ ネット等をしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある。
- ⑲ 誰かと外出するより、ネット等を利用することを選ぶことがある。
- ⑳ ネット等をしている時は何ともないが、ネット等をしていない時はいらいらしたり、憂鬱な気持ちになったりする。

（独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター資料等より）

(4) 成果と課題

＜主な成果と課題＞ 成果：○ 課題：▲

○「家庭のルールがある」と回答した割合が、前年度より、小・中で増加した。

＜小＞ ③ 53.5% → ① 61.9% ＜中＞ ③ 46.7% → ① 49.4% ＜高＞ ③ 21.2% → ① 20.6%

○「フィルタリングを設定している」と回答した割合が、前年度より、全ての校種で増加した。

＜小＞ ③ 38.4% → ① 42.0% ＜中＞ ③ 34.3% → ① 38.7% ＜高＞ ③ 38.1% → ① 40.8%

○「スマホやネットの危険性について教えてもらったり、学んだりしたことがある」と回答した割合は、前年度より、全ての校種で増加、特に小学生において大きく増加してきている。

＜小＞ ② 82.2% ③ 85.8% → ① 90.6% ＜中＞ ③ 92.6% → ① 93.5% ＜高＞ ③ 93.8% → ① 96.0%

○▲「ネットやコミュニケーションサービスを利用して、嫌な経験をしたことがある」と回答した割合が中・高では減少しているものの、小では増加しており、特に小学生に対する情報モラルの指導、保護者への啓発を引き続き充実していく必要がある。

＜小＞ ③ 6.9% → ① 9.1% ＜中学生＞ ③ 15.9% → ① 12.0% ＜高校生＞ ③ 19.5% → ① 10.9%

▲「平日1日に平均3時間以上」スマホ・ゲーム機等を利用していると答えた割合は、高では減少に転じたものの、小・中は増加しており、児童生徒の主体的な取組を継続するとともに、低年齢化する課題解決に向け、一層取り組んでいく必要がある。

＜小＞ ③ 18.0% → ① 21.2% ＜中＞ ③ 27.9% → ① 28.6% ＜高＞ ③ 41.3% → ① 41.0%

▲ 見知らぬ人と画像のやりとりをしたことがあると答えた児童生徒は、依然存在しており、フィルタリング設定やアプリ制限活用の一層の啓発と、引き続き危険性に関する学習を充実していく必要がある。

＜小＞ ③ 0.9% → ① 1.1% ＜中＞ ③ 3.7% → ① 3.4% ＜高＞ ③ 5.1% → ① 5.3%

＜今後の取組＞

県のスマホ・ネット問題総合対策の推進により、学校やPTA、市町村教委において、引き続き積極的に児童生徒の主体的な活動や、家庭でのルールづくりに関する保護者啓発等の取組の充実を図る。

① 児童生徒の主体的な取組の促進

- ・「スマホサミット2020」において、ネットの適正利用等に関する協議・取組の推進

（スマホサミット2019実績）参加校：中学校17校、高等学校4校

その他：小学生、保護者有志14名

- ・コンクールで公募予定の啓発動画をYouTube「晴れの国岡山チャンネル」で公開

② 児童生徒への情報モラル教育の更なる充実

- ・中核教員の養成研修（H27～H29）を経た教員を中心に、児童生徒の発達段階に応じた情報モラル教育を実施
- ・校内研修者プレゼン用資料の作成と各校への提供

③ 家庭や地域への啓発活動の充実

- ・家庭でのルールづくりを促進するツールとして作成した、リーフ「スマホ購入 虎の巻！！」を活用し、利用時間やアプリを制限できるペアレンタルコントロール機能等を、入学説明会や保護者面談等において、保護者に直接配布し説明することで啓発を促進
- ・保護者啓発の中核となる「子ども安全安心ネットサポーター」の活用促進
- ・保護者会等でネットサポーターを活用し、ルールづくりに関する参加型のワークショップ（利用時間制限やアプリ制限等のペアレンタルコントロール設定等）の実施 （R1実績） 実施回数 32回

④ スマホ等の情報機器端末の学習への活用を推進

- ・現在、臨時休業が続く中、学校では、オンライン等を活用した学習や生活支援を積極的に進めており、今後も具体的な活用方法を示していくことで、スマホ等の情報機器端末の学習への活用を推進

スマホ・ネット問題総合対策の推進

子どもをめぐるスマホ・ネット問題とは

- * 長時間ゲームをするなどのネット依存
- * 誹謗中傷やいじめにつながる仲間外しなどのネット上の人権侵害
- * 課金、犯罪被害に遭うなどのネットトラブル

背景は

- * いつでもどこでも簡単にネットに接続できる環境
- * 児童生徒のスマホ等の所持率の増加
- * 情報メディアの活用に関する知識・技術の不十分さ
- * 情報社会のルールやマナー習得の不十分さ
- * 保護者、大人の知識・技術、危機意識の低さ 等

現状と取組の目標

○スマホ等の使用時間制限に関する取組の促進 (スマホ、ゲーム等を平日3時間以上利用する割合)

H27実績	小(13.9%) 中(23.9%) 高(33.8%)	⇒	H30実績	小(18.0%) 中(27.9%) 高(41.3%)	⇒	R2目標値	小(5%) 中(10%) 高(15%)
-------	----------------------------------	---	-------	----------------------------------	---	-------	---------------------------

○家庭でのルールづくりの促進 (家庭でのルールがあると答えた割合)

H27実績	小(56.2%) 中(47.5%) 高(17.2%)	⇒	H30実績	小(53.5%) 中(46.7%) 高(21.2%)	⇒	R2目標値	小(75%) 中(70%) 高(60%)
-------	----------------------------------	---	-------	----------------------------------	---	-------	----------------------------

○フィルタリング設定に関する取組の促進 (フィルタリングの設定率)

H27実績	小(44.7%) 中(39.2%) 高(42.9%)	⇒	H30実績	小(38.4%) 中(34.3%) 高(38.1%)	⇒	R2目標値	小(85%) 中(80%) 高(70%)
-------	----------------------------------	---	-------	----------------------------------	---	-------	----------------------------



学 校

児童生徒の主体的な活動の促進

継続・成果普及

【教育委員会】

○『OKAYAMAスマホサミット2020』の開催

- ・ 小学校部会、中学校部会、高校部会の開催による発達段階に応じた取組の活性化
- ・ 保護者部会の開催による、家庭でのルールづくりに向けた啓発活動について協議
- ・ 成果報告会(11月)の開催 ※教職員・保護者対象

継続・成果普及

ネット依存への対策

○ ネット依存の未然防止や早期対応 【教育委員会】

- ・ ネット依存防止マニュアルの活用と指導の推進
- ・ 県総合教育センターと連携した教職員への研修の充実

継続強化

ネット上のいじめ・トラブルへの対応

【教育委員会】

○ アプリを利用した相談・報告システムの活用

- ・ スマホ等を介して匿名で学校にいじめ等を報告・相談できるシステムを全県立学校で活用し、早期発見・早期対応を促進

継続

実態把握に基づく対応の推進

【教育委員会】

○ スマートフォン等の利用に関する実態調査

- ・ 児童生徒の利用実態に関する調査を継続し、取組全体の効果検証と課題を把握し、指導に活用

○ 学校保健概要調査

- ・ ネット依存に関する取組や児童生徒の依存傾向等を実態把握し、指導に活用

家庭・地域等

家庭・地域等への啓発活動の促進

継続・強化

【教育委員会】

○ ペアレンタルコントロールの普及

- ・ 「スマホ購入 虎の巻!!」を新入生説明会、保護者懇談会等で直接配付し、ペアレンタルコントロールの普及啓発

○ P T A 研修会の充実

- ・ 「スマホ購入 虎の巻!!」を活用し、ペアレンタルコントロールの普及啓発等、参加型のワークショップを取り入れ、スマホ・ネットとの付き合い方について話し合うことで、家庭でのルールづくりを促進

○ 優良実践 P T A の取組を普及

- ・ スマホ・ネット問題で成果を上げているPTAの好事例を収集し、県内に普及

○ 就学前の保護者研修の充実

- ・ 親育ち応援学習プログラムの活用を促進
- ・ ネットサポーター等の派遣を推進
- ・ 入学説明会や検診の機会を活用し早期啓発を強化

○ 地域住民等への啓発活動の推進

- ・ 地域学校協働本部等と連携した研究機会の充実
- ・ 学校通信等を活用した啓発活動を推進
- ・ 家庭教育企業出前講座の取組を推進

連携

連携

連携

継続

関係機関等と連携した対応

○『スマホ・ネット問題解決タスクフォース』

- ・ フィルタリングやペアレンタルコントロールの設定促進など、携帯電話事業者も参画した官民一体の取組を推進
【男女共同参画青少年課】

○『非行防止教室』

【県警本部少年課】

○ ネットパトロール

【教育委員会】

学校と家庭・地域が連携し、子どもを守る体制の構築